

日本現象学・社会科学会報 第77号

日本現象学・社会科学会 事務局
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
早稲田大学 社会科学部 周藤研究室内
Tel/Fax: 03-3203-6308 (直通)
E-mail: info@jspss.org
http://www.jspss.org/

1. 今年度年次大会について

今年度年次大会を、来る12月6日(土)・7日(日)の両日、武蔵大学にて開催いたします。会員各位をはじめ、多数のみなさまのご参加をお願い申し上げます。

【会場のご案内】

武蔵大学 江古田キャンパス ※同封の案内図をご参照ください。

所在地： 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

交通： 西武池袋線 江古田駅 下車徒歩6分／都営地下鉄 大江戸線 新江古田駅 下車徒歩7分
／西武有楽町線 新桜台駅 下車徒歩5分

大会会場：3号館3階3322教室(6日)／8号館6階8604教室(7日)

委員会室：8号館8602教室

*一般報告でご報告の皆様へ

配布資料は40部程度、各自でご用意頂きますようお願い致します。

2. 今大会のシンポジウムについて

今大会では、次の2つのシンポジウムを開催予定です。

シンポジウム1「現象学的行為論の可能性」企画趣旨

大会一日目シンポジウムでは、現象学に依拠した行為論の可能性について議論する。

現象学をめぐる昨今の状況のなかで際立つのは、講義「倫理学の根本問題」(1908/09)や『イデーニ I』(1914)以降のフッサール思想の深化を、現象学の実践哲学的転回として読み解き、倫理学・実践哲学的な観点からフッサールを再評価しようという動きである。フッサールは、意志や願望を非客観化作用とみなす『論理学研究』でのみずからの立場を、その後の『イデーニ I』出版にいたる時期に撤回し、これら心情領域にも独自の対象、すなわち「実現されるべきもの」「望まれるもの」といった価値客観を認めて、倫理学を論理学との類比関係において構想している。

こうした文脈において提起されているのが、行為意志の命題内容とその様相を判断との類比関係におく現象学的な行為論の輪郭である。意志と信念の関係を後者による前者の一方的な基づけとしてではなく、前者によって後者が湧き起こってくるような関係として理解し、意志と行為の創造性を強調するその議論は、行為をやはり信念や欲求とのかかわりで捉える現在の分析哲学的行為論や言語行為論とも議論の基盤を共有しうるようにも思われる。従来後期フッサールとは対立するものとみなされてきた、いわゆる初期現象学派による「意志の現象学」もこうした視座から再発見・再評価されている。

いちはやく行為論的観点から、現象学に依拠した社会科学方法論を展開したシュッツの業績も、ドイツでの全集公刊を受けて、とりわけ社会学における行為論的視点の再検討という関心から再び注目を集めている。シュッツはヴェーバーの伝統に則り、明確に行為論を基礎として社会科学の方法論的基礎づけを試みていたが、フッサールの行為分析について知りえなかった彼の議論は、初期現象学派の業績を評価しつつも、多くはベルクソンやライプニッツの用語法に依拠している。行為を選択と決断の契機において分析する彼の行為論が、いかなる意味で現象学的であるかはあらためて問われてよい。

さらにハイデガー研究においても、行為論的視点が主題化されている。とりわけ志向作用を主観の表象作用ではなく、世界内における行為として分析する視角を初期ハイデガーに見出そうとする研究や、『存在と時間』第二篇を「規範性の源泉」というカント＝コースガード的な問題設定で読もうとする方針等が近年注目を集めている。

提題はそれぞれ、これらの諸動向を整理しつつ、現象学的行為論の可能性を問う。現象学的に行為を論じることは可能か、可能だとすればいかにしてか。この主題の周辺には、現象学の倫理的展開の可能性、分析哲学を中心とした現代行為哲学との対話等、今後議論すべき課題が山積しており、そのための基礎作業となるような議論ができることを期待している。

(文責：木村正人)

シンポジウム2「現象学と社会科学の接点をもとめて」企画趣旨

現象学・社会科学会は、創立から四半世紀が立ち、現象学に対して求められるものが変質してきた中、転換点を迎えています。哲学においては、四半世紀前に、生活世界の学としての現象学に期待されていた事柄は、公共哲学、応用倫理学といった、その後に登場する新しい分野によって担われるようになり、相対的に現象学に対するそうした期待は縮小してきたように思われます。他方、社会科学（特に社会学）においては、「現象学的」とされる生活世界を捉える視点とその知見は、もはや一般化、通常科学化してしまい、そうした領域の研究は理論的な研究を除いて、こんにち殊更「現象学」を意識する必要がなくなってきた状況にあるように思われます。

こうした中、本学会では、今後の学会のあり方について、この1、2年検討を重ねてまいりました。昨年の大会では「哲学にとっての社会科学・社会科学にとっての哲学」と題して、本学会を支えて来られた先生方を中心に、哲学と社会科学との関係性について、それぞれの観点から話題提供をしていただき、議論を深めてまいりました。行ってきた検討の中には、学会名の改称という案もありましたが、必ずしも現象学にこだわらない哲学者と、むしろ現象学の「旗」の下に集まっている社会学者という構図が議論の中で浮かび上がってきたことは、記憶に新しいところです。

今回のシンポジウムでは、これまでの議論を踏まえつつ、本学会が現在の名称のまま学会を継続する方向性を打ち出した中、改めて現象学と社会科学の接点を問い直してみたいと思います。そこでは、一方でフッサールを源流とする現象学に立ち戻るとともに、他方ではこれまで本学会が試みてきたことをさらに発展させる方向もありましょう。本シンポジウムは、現象学・社会科学会の新たな四半世紀のスタートに相応しい有意義な討論の場にしたいと考えています。

(文責：周藤真也)

3. 会費納入のお願い

今年度の会費をまだご納入いただいていない会員の方には、郵便振替の払込用紙を同封させていただいておりますので、ご面倒でもお振り込みくださいますようお願いいたします。年会費は、一般2,000円、学生1,000円となっております。行き違いでご納入いただきました場合には、失礼をお許しください。なお、大会時に会場の受付でも会費の納入を承っております。

以上

日本現象学・社会科学会 第25回大会プログラム

会場：武蔵大学 江古田キャンパス

大会参加費：500円（会員ではない方のみ）

【第1日：12月6日（土）】（3号館3階3322教室）

12:30 受付開始

13:00～14:00 対論「居酒屋あるいは会話の場としての公共圏——その機能と現状」

橋本 健二（武蔵大学） 聞き手：水谷 雅彦（京都大学）

14:00～14:15 休憩

14:15～17:15 シンポジウム1「現象学的行為論の可能性」 司会：村田 純一（東京大学）

職業としての哲学——フッサールの行為論の目指すもの（仮題）

吉川 孝（高知女子大学）

投企と企図について——意志の現象学序説 木村 正人（早稲田大学）

ハイデガーにおける行為の哲学（仮題） 池田 喬（東京大学）

18:00～ 懇親会（会場：鳥忠（東京都練馬区栄町3-10 電話：03-3992-5777），

会費：一般5,000円、学生4,000円）

【第2日：12月7日（日）】（8号館6階8604教室）

10:15 受付開始

10:30～12:00 一般報告 司会：片桐 雅隆（千葉大学）

10:30～11:15 「経済社会学に関する現象学的視座」 廣重 剛史（早稲田大学）

11:15～12:00 「和辻哲郎『間柄』の倫理学における『公』の概念について

——丸山眞男『日本ファシズム論』を意識しながら——

芦川 晋（中京大学）

12:00～13:30 委員会（8号館6階8602教室）

13:30～14:00 総会

14:00～17:00 シンポジウム2「現象学と社会科学の接点をもとめて」

司会：榎本 環（駒沢女子大学）

教育学からみた現象学——『感受性を育む』がめざしたこと

中田 基昭（東京大学）

システムという観点から——自己組織性を中心に（仮題）

桜井 洋（早稲田大学）

直面する課題から逃げず、小銭で払い続けるために——私の哲学的戦略メモ——

神谷 英二（福岡県立大学）

反社会学的思考、あるいは現象学の再構成

周藤 真也（早稲田大学）